

**協議① 「令和6・7年度 石川県社会教育委員の会議のまとめ」について**  
ウェルビーイングの実現をめざした学校を核とした地域づくり  
～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進をとおして～

**協議② 「石川県立学校 コミュニティ・スクールガイドブック」について**

**【主な意見】**

- コミュニティ・スクール（CS）の概念が十分に浸透していない
  - ・ 「コミュニティ・スクール」や「ウェルビーイング」といった用語が難しく、理解が進みにくいため、より分かりやすい説明が必要である。
  - ・ 学校側においても、CSの意義や役割の理解が十分でないケースもある。
- 行政の関わりの必要性
  - ・ 通学路の安全確保など、地域と学校だけでは解決が難しい課題が存在するため、行政との連携が不可欠。
- 学校の「特色・方向性」の発信が重要
  - ・ 学校が何を目指し、どのような教育を重視するのかを明確に示すことで、取組の幅が広がる。
  - ・ 学校が直接実施できない活動を地域組織が補完することで、取組の幅が広がる
- 小中高を通じた一貫した学びの必要性
  - ・ 探究学習や地域課題解決学習を、小・中・高で段階的に積み上げることが重要
- 地域活動の継承と担い手不足
  - ・ 青年団などの地域組織の存在が、子どもや保護者に十分知られていない。
  - ・ 地域コミュニティの希薄化により、担い手不足が深刻化している。
- 行政の縦割り構造が連携の妨げ
  - ・ CSと地域学校協働活動の担当課が異なり、相談窓口や連携が一本化しにくい
- 地域の活動を学びに取り入れる視点
  - ・ 地域の伝統文化、防災、青年団の役割など、地域の課題を子どもたちが学びの中で調べることで、学校と地域のつながりが強まる。
  - ・ 地域との協同的な活動は、挑戦・自己調整といった非認知能力の向上に寄与する